

発表交流

ポスター
セッション

NIE はじめの一歩の交流会

京都大会では、ポスターセッション部門を新たに設けました。発表者は、NIEに取り組んでいる人、これから進めていこうとしている人、役に立つ（かもしれない）アイデアや手法を持っている人や団体の皆さん。子どもたち（児童生徒）や教職員、市民グループ、NPO、企業、社会教育施設、研究者などによる約50の発表があります。双方向の対話と交流によって、NIEや探究に生かせる新しいアイデアや手法が生まれる場となれば幸いです。

開場時間は午前9時～午後2時。各展示場所に、発表者がいる（交流できる）時間を掲示します。

（50音順、敬称略）

1 inote+P

発表者：服部 加奈子 ほか

まちにツッコむ！子ども新聞

「ふしみ子ども新聞」をはじめ京都の各地で「まちにツッコむ！きょうと子ども新聞」の輪を広げています。子どもが作って大人が読む新聞。子どもたちの取材内容ができるだけそのままの表現で記事にしています。ツッコむは、「なんでやねん」と探究するだけでなく、子どもたちが地域社会に深く関わり参画することを表しています。私たちの取り組みの目的、方法、課題と成果、今後の展開をお話しし、皆さんのアイデアをお聞きます。

2 一般社団法人アクティブ・ブック・ダイアログ協会

発表者：竹ノ内 壮太郎 ほか

教育現場と実践コミュニティにおける
ABDの活用

アクティブ・ブック・ダイアログ（ABD）は、1冊の本を複数名で分担して読み、要約をつくり、著者になりきって発表し、皆で対話を行う参加型読書会です。自らの気づきを深め、集合的な学びを促進します。2014年に考案。教育現場や企業などで実践が広がっています。24年度の高校教科書「国語表現」にもABDが手法として記載されています。各現場でのABD実践事例の紹介と、さらなる活用可能性について発表します。

3 茨城新聞社

発表者：澤畑 和宏

新聞×ボードゲーム

複数の新聞をボード代わりに、カードを使って遊ぶボードゲームをつくりました。4～6人のグループで、「親」1人と「子」を決めます。「子」が話題にしている「お題」の記事を、「親」が「子」のヒントをもとに当てるゲームです。「子」は手にしたカードに書かれた「立場」で、「お題」の記事のヒントを出します。見出しにある言葉を使うのはNG！情報を多面的・多角的に見て判断しようとする意識が高まるようです。

4 大阪シティズンシップ研究会

発表者：中 善則 ほか

こども新聞の充実、こども新聞社の
ネットワーク化を目指して

「民主主義社会を発展させるため、大人は、こどもにメディアを持つ機会を創設する責務がある」という信念のもと、当面はこどもの「新聞づくり」に特化して、研究や実践を行っています。主権者育成のあり方について実践・考察します。全国の「こども新聞」のネットワークをつくることを夢見ています。全国各地のこども記者や支援者と、紙面充実に向けての交流や読者拡大の方法、ネットワーク化について話し合いたいと願っています。

5 岡山県立岡山南高等学校

発表者：畝岡 睦実 ほか

新聞づくりを通して、「商店街の活性化」を図る
～商店街支局設立に至るまでの取り組み～

岡山市では岡山駅前への路面電車乗り入れ、駅周辺の商店街再開などが進められている。自分たちが住む街は今後どうあるべきかという問いを立て、在校生の意識調査、駅前商店街、新設の複合ビル、行政への取材や県外の商店街の視察を行った。「岡山の未来」をテーマに新聞を制作し、わが街の未来に向けて高校生ができることは何かを考えた。新聞づくりを中心にした探究活動は、商店街新聞を定期発行する商店街支局設立に至っている。

6 河北新報社

発表者：須藤 宣毅 ほか

マイ防災新聞「私が主役の避難訓練」

新聞の手法を用いた探究学習。宮城県内の中学生が東日本大震災や風水害の当事者から話を聞いて地域の自然災害を学習した後、自ら避難訓練を企画して、家族と一緒に最寄りの避難場所に移動します。移動時間、道路、交通状況、危険な場所、災害発生時に役立つようなもの、家族のコンディションなどをチェック。成果と課題を記事にまとめ、学習の理解と定着を図ります。発信力を高めるため、見出しをはじめ紙面制作にも取り組んでいます。

7 亀岡市立詳徳小学校

発表者：小学6年生グループ

**日本の文化・平和について考える
～修学旅行を通じた探究的な学びについて～**

総合的な学習の時間における探究的な学びを発表します。修学旅行で広島市や姫路市を訪れました。個々に知りたいことを考え、広島の歴史について調べ、現地で原爆投下の実態や被爆者の体験談を聞いて人々の苦しみや願いを学びました。また、世界から注目される日本の文化遺産にはどのような魅力があるのかについて考え、世界遺産・姫路城を訪れました。「広島」「原爆」「折り鶴」「姫路城」の各チームが学んだことを発表します。

8 唐津市立西唐津中学校

発表者：光武 正夫

道徳科『かぜのでんわ』×新聞力

小学5年の道徳教科書に絵本『かぜのでんわ』が載っています。この資料と岩手日報の企画広告「最後までわかっていたなら」や動画、記事、ウェブ、条例「大切な人を想う日」制定につながる企画力など、“新聞力”を組み合わせて、道徳科の授業を開発し、小中学生の意見交流や意見文の作成に取り組みました。震災当時中学3年だった大槌町職員とオンラインで結ぶ事前授業も。参観した保護者と、帰宅後、家庭で対話や考察が続きました。

9 関東学院六浦中学校・高等学校

発表者：九渡 愛美

学校図書館における放課後「新聞 Cafe」の実践

関東学院六浦中学校・高等学校の図書館では2022年12月より、月1回放課後に「新聞Cafe（2024年度より「放課後Cafe」という名称）」を開催しています。その実践を紹介します。そして、NIE全国大会京都大会ポスターセッション会場へお越しの皆さまに話題提供を行い、皆さまの考えや感想などをポスター上で共有するような（付箋に書いて貼る・もしくは直接ポスターに書く）かたちで交流したいと考えています。

10 きくかくラボ

発表者：奥野 美里、石崎立矢 ほか

**安心してことばを話し、お互いを大切にできる
inter-view の場づくりの模索**

～きくかくラボ（inter-view & dia-logue lab）の実践と探究～

人の話を聞き、かく（書く／描く）という行為は、思いを大切に受け止め、力を引き出す一方で、無意識の偏見や役割の固定化によって相手を意図せず傷つけることもあり、ことばを発するのをためらわせてしまう場合があります。私たちは「安心してことばを話し、お互いを大切にできるinter-viewの場づくり」を考え、模索しています。対話にグラフィックを活用する事例（実演）と、名刺を使わない自己紹介ワークを紹介します。

11 京丹波町立下山小学校

発表者：小学6年生グループ

丹波八坂太鼓

私たち下山小学校の6年生は、毎年、小学校の伝統である「丹波八坂太鼓」を先輩から引き継いで練習し、演奏をしています。その「丹波八坂太鼓」についてインタビューをしたりして調べたことをまとめて発表します。また、私たちが住む下山地域について調べたことをもとに、下山小学校のマスコットキャラクターを考え、今年創立150周年を迎える下山小学校を盛り上げたいと計画しています。

12 一般社団法人 京都子ども記者クラブ

発表者：橋本 祥夫 ほか

**「子ども記者クラブ」の活動を通じた
シティズンシップの育成**

京都府南部地域を中心に、地域紙・洛タイ新報の協力を得ながら、小学生から高校生の子も記者が地域に出向き、取材します。洛タイ新報の紙面に年間を通じて記事が載ります。さまざまな地域の取材で、自分たちの地域の良さや問題を認識し、魅力や課題を見つけます。新聞掲載により、同世代や家族、多くの市民に自分の考えを伝えます。サポートをする大学生と世代を超えて交流し、協働で活動しています。会場では記事も配布します。

13 京都市岩倉図書館

発表者：井上 典子 ほか

公共図書館を核とした多世代地域NIE

子どもからお年寄りまでみんなが無料で集える図書館の利点を活かし、「新聞からいきいきを探そう！」をテーマに令和3年からワークショップを開催してきました。ある時は、小学生が地元織物会社から「コースター作り」を習った後、自らの体験を新聞記事にまとめました。また、コロナ禍に認知症の方と地域にお住まいの方が新聞を媒介に対話するイベントは、共生社会づくりの一助となりました。図書館と一緒に資料を活用して、社会課題の解決に取り組みませんか。

14 京都市立光徳小学校

発表者：小学5・6年生グループ

中堂寺大根・中堂寺六斎念仏

5年生は、光徳学区に古くから伝わる六斎念仏踊り（中堂寺六斎会）を調べました。インタビューをしたり太鼓のたたき方を教わったりしてきました。多くの人に知ってもらうため、調べたことをまとめました。6年生は調べ学習で、光徳学区にも昔、中堂寺大根と言われる京野菜があったことを知り、インタビューしたりぬか漬けを作ったりして、地域の人に知ってもらう取り組みを進めました。子どもたちの思いを、ぜひ受け取ってください。

15 京都知図展コミュニティ

発表者：福島 こずえ ほか

Feel度Walk&知図であつめたものから あらわれたものを「しんぶん」であらわしてみよう

思うままに、自由に感度を高め、歩く「Feel度Walk」。Feel度Walkでなんとなく気になりあつめたモノやコトを自由に描く、自分だけのオリジナルな好奇心の記録が「知図」です。知図をさらに並べ替え、組み合わせることにより、自分なりの思いを他者に伝えるメディアである「しんぶん」を作成する活動につながれるのではないかというアイデアを紹介します。

16 京都文教大学

発表者：橋本 祥夫 ほか

大学のNIE ～教員としての資質・能力を高めるNIE活動～

小学校教員養成課程のNIE実践です。初年次教育（こども教育基礎演習）では関心のあるテーマを選んで新聞スクラップを作成し、発表。教員に求められる幅広い教養と社会への関心を高めます。継続的に新聞を読む習慣をつけ、教員としてのキャリア形成を図ります。発展科目（現代社会とこども・家族）では子どもや家族に関する新聞記事から現代的課題を考察します。関連記事を探し、新聞を比較読みして記事の背景を読み取ります。

17 京都文教高等学校

発表者：二之湯 俊一朗 ほか

円山公園周辺における価値を伝える

京都文教高校探究ゼミは、円山公園周辺をフィールドに絶滅危惧種の保全・啓発活動や竹あかりを用いた公園活性化についてプロジェクトベースの学習活動を行っています。その活動や円山公園周辺の観光価値をより多くの人に知ってもらうため新聞づくりに挑みました。SNS全盛時代にあえて新聞で伝える意味を考え、「誰に」「何のために」を明確にしていきました。皆様の意見ももとに、より良い新聞にブラッシュアップしていきます。

18 共立女子第二中学校高等学校

発表者：伊藤 久仁子

読んで書いてシェア！新聞記事で伸ばす文章表現力 ～朝日中高生新聞「天声人語で200字作文」連載10年目の実践報告～

本校の朝学習実践から生まれた『朝日中高生新聞』（朝日学生新聞社）の「天声人語で200字作文」コーナーが、今年で連載10年目を迎えました。200字作文を書いて編集部に掲載する読者参加型の作文学習として定着し、各地の学校や塾でも取り組まれています。シェアして読みあうプロセスから生まれる①心理教育的効果②キャリア教育的効果③シティズンシップ教育的効果を考察し、学校現場と新聞社の理想的な連携の可能性を展望します。

19 グラフィックー/ファシリテーター（きくかくラボメンバー）

発表者：奥野 美里

偶然の出会いと交流、学びを促す 「見えるまちかど対話」実践報告

～時間を越えた対話を生み出すグラフィック・ファシリテーションの可能性～
まちづくりや組織開発など、特定の人が集められた室内でのワークショップ等で活用されることが多いグラフィック・ファシリテーションは、話された内容を可視化することによって対話を促す手法です。可視化によるメリットは多々ありますが、筆者は今回「描き留められているがゆえに、時間を越えた対話ができる可能性」に着目し、「見えるまちかど対話」と名付け、トライアル実践を行いました。その結果報告と実演を行います。

20 株式会社 現代の寺子屋

発表者：小山 幸司郎 ほか

デジタルを使いこなそう！夏休みのチャレンジ

現代の寺子屋が主催するプロジェクト型学習「デジタルを使いこなそう」に参加する子供たちが、自分たちのチャレンジの様子や、夏休み終盤に完成させる成果を事前にご覧いただけます。5分程度のショートムービーがあります。

21 光華小学校

発表者：小学6年生グループ

「海のプロジェクト in 舞鶴」から学んだこと

私たちは以前、宿泊学習「海のプロジェクト in 舞鶴」で海の環境問題について学びました。ウニの解剖を行い、ウニの可食部分が減少していることを実際に体験することができました。現在、地球温暖化の影響で、海の生物に様々な影響が出ています。とれる魚の減少、とれる魚の種類の変化、赤潮による被害などについて学び、自分で課題を設定し、課題解決のために調べ学習を行いました。その内容を発表します。

22 一般社団法人 こどもみらい研究所

発表者：太田 倫子 ほか

「こどもみらい通信社」（宮城県石巻市）について

子どもたちによる通信社「こどもみらい通信社」は、宮城県石巻市を拠点に2023年7月より情報発信活動を行っています。神戸と英国に協力団体による「支局」があります。東日本大震災の記憶と教訓を伝えるため2012年に創刊した石巻日日こども新聞（休刊中）が前身です。こどもみらい研究所は、未来を創る子どもたちの声が社会に届くよう、表現力を磨き、発信し、社会に参加するための活動を支援し、機会を創出していきます。

23 島根県大田市教育委員会

発表者：八波 直樹

やってよかった NIE

昨年度まで中学校教諭としてチャレンジ校の指定を受け、全校をあげての新聞出前教室や新聞コンクールの応募、学校図書館との連携による授業展開、生徒会活動と連携した活動、作文指導や読み比べ、人権学習と関連付けたジェンダー教育などの実践を進め、生徒の学力向上、新聞への興味関心を広げることができました。校内の環境整備をどのように整えたのか紹介します。現在の教育委員会指導主事（島根県）の立場で何ができるかも考察します。

24 ジャーナリスト

発表者：城島 徹

**1枚の写真を追って
～大正初期の京都で新聞活用授業！～**

大正初期の尋常小学校で新聞を手にする子どもたち。「これは100年前のNIEではないか」。京都市学校歴史博物館で目にした1枚の写真を手がかりに時空を超える追跡取材が始まった。校長は「児童本位」を掲げる大正新教育を牽引した人物と判明。教壇に立つ教師名、使用した紙面の日時も記した当時の地方版のルポ記事が発掘されます。「時代に適応せし新教育法」（記事）とあり、現代に通ずる探究学習の全貌が浮かび上がります。

25 株式会社 新聞ダイジェスト社

発表者：中本 澁平 ほか

**「時代はいま、どう動いているのか！」
～新聞ダイジェストが社会を捉える視点と工夫～**

新聞6紙の記事を基に1カ月の社会の動きを捉える月刊誌「新聞ダイジェスト」。膨大な情報から主要テーマを取り出し、掲載記事を絞り込む編集過程での選定の視点、限られた誌面で分かりやすくまとめる工夫を紹介します。
①「点」を「線」に、「面」に。主要なテーマの記事特集
②主な記事を分野別に掲載③各紙の社説読み比べ④主要ニュースの基本知識を問う「時事問題模擬試験」⑤掲載記事を絞り込む視点、分かりやすくまとめる工夫

26 全国学校図書館協議会

発表者：村山 正子 ほか

**新聞活用と学校図書館
「情報活用授業コンクール」の紹介**

情報活用というとICTを連想しがちですが、本来、情報とは、デジタル情報だけでなく、本も、新聞も、パンフレットも、見たり聞いたりしたことなども含まれます。全国学校図書館協議会では、そのようなすべての情報をうまく活用していく指導が重要だと考え、「情報活用授業コンクール」を実施しています。新聞を使った実践の応募が多数あります。実践事例を含めてコンクールを紹介し、学校図書館とNIEの協働を推進していきます。

27 泉南市立西信達中学校

発表者：島田 拓弥 ほか

**みんなでたすかる
～つながる防災プロジェクトN～**

総合的な学習の時間で防災ゼミ活動に取り組み、生徒たちは地域の防災・減災を考え、住民と関わりました。地域に伝える広報を担当したのが「防災こども記者クラブ」。学校と地域をつなぐ「ニュースぼうさい・みらい」を発行しました。西信達地域フェスタでも500部以上を地域に配布し、学校での魅力的な取り組みを広めました。教員と生徒がともに主体となって、編集・発行していく地域の防災・減災の情報誌の今と展望を発表します。

28 探究堂

発表者：山田 洋文

**新聞を活用した自由研究のテーマ探し
～「なんとなく」から始めよう！～**

自由研究はテーマ決めが大切だとよく言われます。ただ、いざテーマを決めようとする、やりたいことが思いつかない子どもたちも多いのではないのでしょうか。今回の発表では「テーマは『自分の外』にある」を合言葉に、新聞を活用しながら、テーマのタネを見つけて、それを広げていく方法を提案します。

29 探究を实践する教員コミュニティ

発表者：山野 洋平、伊藤 恵子

**日常・足元にある小さな発見を面白がり、
記録してゆる発信し続けること**

Feel度Walkの手法（市川力さん提唱）を日常に取り入れ「なんとなくセンサー」をちょっとしたすき間で発動させて小さな発見を続けています。記録し残すことで、どんなものに自分が目を向けているのかが浮かび上がります。ICT活用が学校でも進む中で、アナログの良さは失われつつありますが、ICTの力を活用しながらアナログを残す、共存記録を紹介します。「手描き」で観察力を向上させ、探究力や想像力を発揮し、表現する喜びを共有します。

30 チーム・シラベル

発表者：美王 孝文 ほか

**わたしでも誰かをハッピーにできる！
シラベルでハッピーにできる！**

シラベルワークショップは「調べる力」と「見える化する力」を身につけ、課題解決の糸口を見つける実践の場です。公共図書館の資料活用を基本とし、社会課題解決の場として活用します。誰かをハッピーにしたい時、シラベルが手助けになります。「その人の願い事は何ですか？」「してあげたいことは何ですか？」「願い事をかなえるため、何の情報が必要ですか？」「調べる力」と「見える化する力」の身につけ方を一緒に考えます。

31 帝塚山大学

発表者：徳永 加代 ほか

市民性を育てる新聞スクラップと投書活動

帝塚山大学教育学部では、1年生から新聞スクラップに取り組んでいます。週1回、教育に関係する記事を選んで要約し、自分がどう考えたかを書きます。教育への興味・関心を高め、市民性を身につけ、考える力を育成することが目的です。新聞スクラップを評価し合う活動や、自分の考えを投書欄に投稿する活動も続けています。よりよい社会の実現のために、社会での出来事を自分事として捉え、積極的に関わろうとする力が育っています。

32 東京都立第四商業高等学校

発表者：中山 正則

1日5分で、効果満点！ 電子版ニュースでNIE

1日5分の継続で、効果満点なNIEをしましょう。内容は①高校生に毎週2回地理総合の授業で書かせている「私が選ぶ3大国際ニュース」による国際感覚育成の効果②看護専門学校の学生に毎週1回論理学や教育学、国語文化表現の授業で書かせている「私が選ぶ3大医療系ニュース」による最新医療への意識向上の効果。学生の反応を主体に、どの学校でもすぐに取り組めるNIEの継続の大切さを伝えていきます。Let's Enjoy NIE!

33 同志社学生新聞局

発表者：鎌田 麟太郎 ほか

新聞作成をとおした探求活動

同志社学生新聞局のNIE（教育に新聞を）活動を紹介します。私たちは取材内容の決定からアポ取り、取材、執筆、レイアウトまで全てを自分たちで行っています。取材内容は同志社大学の授業に関することから学生から見た京都の姿など多岐にわたります。完成した新聞は読売新聞社に入稿し、本社の方に校閲していただいています。発表では、局員たちが実際に書いた新聞を用いて、学んだことや感じたこと、今度の取り組みなどを述べる予定です。

34 長崎県立上五島高等学校

発表者：山口 裕平

高等学校における「新聞」を核とした教育活動の実践事例について

学習指導要領は学校での学びをどう社会に活用できるかを重視しています。学校の学びと社会をつなぐツールとして最も有効なのが「新聞」です。昨年度よりNIE実践指定校の本校は「新聞を通して社会と学校での学びをつなげること」を目的に、「新聞」を全教科で授業や、総合的な探究の時間、進路指導で活用しています。それぞれの場面において、どのような目的で、どのように新聞を活用したのかについて実践事例を報告します。

35 奈良女子大学附属中等教育学校

発表者：中学2年生グループ

2011年3月の新聞記事を読む ～わたしたちの気づきと学び～

私たちの多くは東日本大震災が起きた2011年に生まれました。これまで話には聞いたことがあるものの、しっかりと向き合ったり学んだりした経験はありません。そこで、2011年3月の新聞記事を読むことで、当時何があったのかをまずは知り、そして何に気づき考えたのかを発表します。

36 奈良女子大学附属中等教育学校

発表者：中学3年生グループ

新聞で見る「復興五輪」 ～福島民報と朝日新聞から～

2020東京オリンピックは、「復興五輪」と言われました。その「復興五輪」について、被災地の福島県の新聞、福島民報の記事ではどのように使われたのか分析します。分析対象の記事は聖火ランナーが福島県内を走った2021年3月の掲載記事です。また、全国紙である朝日新聞の2021年3月の記事での使われ方と比較し、共通点や違いを分析します。

37 奈良女子大学附属中等教育学校

発表者：高校1年生グループ

学校の防災機能の課題 ～新聞から学び、自分の学校に生かす～

東日本大震災や、能登半島地震では学校が避難所になりました。また、生徒が学校にいる時間に大きな地震が襲うことも考えられます。そうした事態に備えるために学校の防災機能をふだんから高め、維持することは重要です。学校の防災機能の課題を明らかにし、高め、維持するために防災について新聞から学び、自分たちの学校の防災機能の向上に生かしたことを発表します。

38 奈良女子大学附属中等教育学校

発表者：高校2年生グループ

能登半島地震から学ぶ

私たちは、2024年と2007年の能登半島地震の新聞記事から学んだことを発表します。「創造的復興とは何か」や「情報伝達速度の違い」、「復興のし方の違い」などを元に、大規模な自然災害に備えるために未来に生きる提案や提言をします。また、震災の記憶を風化させないために、私たちの視点からできることなども発表します。

39 日本 NIE 学会第 21 回大阪大会実行委員会

発表者：森田 英嗣 ほか

日本 NIE 学会第 21 回大阪大会（11.23-24）のシンポジウムと日本 NIE 学会の取り組み

日本 NIE 学会の第 21 回大会が、大阪教育大天王寺キャンパスで 11 月 23～24 日に実施されます。「ニュースリテラシー教育をどうつくるか」を大会テーマに研究発表や議論を行います。学会の大会の歩みを概観し、今大会のテーマの意義や、期待される議論や論点を、二つのシンポジウムの意図とともに紹介します。学会の企画委員会、研究委員会の特徴的な取り組みも紹介し、NIE の今後の展開について、意見交換を通じて考察を深めます。

40 公益財団法人 日本漢字能力検定協会

発表者：中見 桂也 ほか

NIE をより楽しく・深く学ぶためのコンテンツのご紹介

子どもたちが NIE をより楽しくより深く学ぶために活用可能なコンテンツ例を紹介します。①漢検とニュース…協会と京都大の共同企画、読売新聞社の協力で開発した漢字学習アプリ。最新ニュースの見出しを問題文に漢字学習ができます。ニュースの理解に必要な漢字語彙力の向上に役立ちます②意見文ワークシート…「文章読解・作成能力検定」関連の教材。新聞記事を題材に自分の意見を構造的に整理し、他者との対話に生かせます。

41 一般社団法人 日本民営鉄道協会

発表者：渡邊 俊晃

私とみんてつ小学生新聞コンクールのご案内

新聞作成を通じて全国の小学生に鉄道に関する関心と理解を深めてもらう目的で 2007 年にコンクールを始め 2024 年度で 18 回目を迎えます。昨年は全国から 4133 作品の応募がありました。コンクールの概要を発表します。教育現場でのデジタル化が進む中、新聞を作成することの重要性について発信するとともに、生活の中の重要な交通インフラである“鉄道”について改めて考えていただくきっかけにしたいと思います。

42 knocks! horikawa みんなの図書館

発表者：國定 若菜

世代や分野、立場を超えた交流の場づくり～シェア型図書館の実践と探究～

本や教育、アートを切り口に地域で活動してきた団体が協同運営する knocks! horikawa。さまざまな世代や分野、立場の人が集い、交流しています。大人の得意なことを持ち寄り、子どもたちとワークショップを開いています。大切にしているのは、子どもたちが思いや考えを安心して表現、実現できる場であること。本を用いたワークを紹介します。NIE に活用できる場づくりについて皆さんとの対話を楽しみにしています。

43 ハートグローバル京都

発表者：山本 利枝 ほか

**ミュージックアウトリーチ
表現教育活動で子供たちを育む**

HEART Global ミュージックアウトリーチの活動とは、3 日で、1 時間のショーを作る表現教育プログラムです。ショーを作る過程で、参加者、周りに関わる人が探究し、学び、表現します。世界から集まった先生役のキャストが集まることにより、多様性を体験します。このような要素を持ったプログラムを、参加者、保護者の体験談とともに紹介します。

44 兵庫県立伊川谷高等学校

発表者：福田 浩三

**はがきと学年通信で NIE
～京都探究で残そう、はがき文化～**

はがき文化の衰退が危惧され、高校生が「はがきを書いて実際に投函する」経験を持つことは重要です。校外学習の事前学習で「京都に関するテーマを決め、はがき新聞にまとめ、期日に学校に着くように投函する」を課します。校外学習当日に生徒が京都散策の中で自身のテーマについて確認し、帰校後に感想はがき新聞を作成、記事で自身のテーマに関する考察を加えます。はがき新聞・学年通信・京都のコラボとしての NIE 実践です。

45 広島国際学院中学校高等学校

発表者：為重 慎一

**今を生きる私たちの「いのち」の向き合い方
～新聞をとおして現代社会で必要な死生観を身に付ける活動～**

世界各地で人命を奪い合う出来事が多発しています。各自の人生を守り切れず、苦しみ、悲しむ人が多くいます。人々、環境と付き合い、持続可能な社会を築くためには、あらゆる「いのち」との関わりを見直し、考える必要があります。国際社会を生き抜き、多様な人々と交流するために「いのち」とのやり取りをどう学び、将来につなげるか。日々、生きる営みを伝える新聞情報を通し、死生観を育む活動を一年間行いました。

46 琵琶湖疏水アカデミー

発表者：小森 千賀子

**フィールドから学ぶ！
～琵琶湖疏水について知る、学ぶ、深める、発信
する子どもたちにエールを送ろう！～**

琵琶湖疏水について学ぶ子どもたちを支援するため 10 年以上にわたり社会見学やフィールドワークのサポート、取材活動、専門機関との連携などさまざまな取り組みをしてきました。特に力を注いでいるのが、毎年行う「琵琶湖疏水新聞コンテスト」です。今年は、10 回目の記念大会になります。子どもたちが考え、発信するオリジナル作品には素晴らしい可能性が詰まっています。

47 平安女学院中学校

発表者：中学2年生グループ

①今の世界厳しいって…

～SDGsについて知らない、ホントに危機感持った方がいいよ。～

②おい、笑えない 世界の実態

毎週SDGs17の目標に関連する新聞記事を探し、授業で発表して、クラスで共有してきました。社会に向けて自分たちに何ができるか、何を発信していいのかをまとめました。

①ジェンダーや教育、地震など自然災害などSDGsの問題について、様々な視点でアプローチします。②世界の実態を伝えるため3チームに分かれて発表します。▽子どもの生活や病気、健康について▽人々の不平等や差別について▽環境に優しい行動について

48 平安女学院中学校

発表者：中学2年生グループ

①それガチ（真剣）でっ！スラム危険やで！！？

②皆でつくる未来への「海」

毎週SDGs17の目標に関連する新聞記事を授業で発表し、クラスで共有してきました。社会に向けて自分たちに何ができるか、何を発信していいのかをまとめました。

①世界のスラムについて知り、実態を踏まえ、これからの世界のあり方について「住み続けられる町づくり」を考察しました。大人の皆さんへ訴えていきます②「海の汚染」を中心に、地上の様々な課題について考え、人々が安心して住める平和な社会について掲示します。

49 株式会社 まるとまるっと

発表者：大久保 謙

「修学旅行」「コメディ」 沖縄発の新聞活用最前線！

沖縄への修学旅行生に当日の新聞を使う講話やアーカイブによる沖縄探究サポートなどを企画実施。1週間の紙面を題材にトークイベント「ニュースペー Bar『泉崎コメディクラブ』」を週イチ開催、まもなく5周年になります。新聞社の立場ではなく民間の「読者」の立場で新聞を題材に賛同や批判もなんでもありの自由な取り組みを継続。沖縄から、多様な新聞活用の新しいシーンを作ろうと日々もがきながら取り組む最前線を紹介します！

50 嵐電（京福電気鉄道株式会社）

発表者：射庭 和之

嵐電沿線 地域沿線学校との連携

沿線の学校との連携の取り組みを紹介します。①私とみんてつ小学生新聞コンクールの取り組み②御室小学校、新聞作りのための見学会③御室小学校の鉄道賞入選④卒業作品展を掲出した特別電車の運行⑤嵐電・紫式部の取り組み⑥嵐電沿線・紫式部ゆかりの地とさっぷの紹介⑦京都先端科学大学附属中学校高等学校との連携

51 公益財団法人 理想教育財団

発表者：田中 正信 ほか

「はがき新聞」を活用した授業づくり

子ども達一人ひとりが、自分の考えを整理し、アイデアを明確に表現したり、友達や先生との対話を活性化させたりする力を育む はがき新聞を活用した授業づくりを紹介します。

はがき新聞づくりは、子ども達の論理的思考力、語彙力、表現力を養うことにつながり、出来上がったはがき新聞を使っただけの交流は非認知能力の育成にも役立っていただけます。

52 琉球新報社

発表者：宮城 菜那

かんたん！楽しく！学び深める 「マナリゅう」

「新聞を読む時間が無い」「新聞を読むのが苦手。」「デジタルって難しい。」そんな声を受けて誕生したのが「マナリゅう」です。新聞に触れるきっかけ作りとして、デジタルだから簡単にできること、便利になることを沖縄県内の事例と共にご紹介し、意見交換会（アドバイス大募集）を行います。

53 株式会社 ルテシア

発表者：大山 徹

新聞に触れるきっかけを最高の遊び体験に 「BEST SCOOP」

新聞紙面をフル活用したゲームで新しい探究学習を。「BEST SCOOP」は、実際の新聞紙面を使って遊べるアナログゲーム型教材です。「新聞」というメディアに遊びながら触れることによって、自然と「新聞」に興味を持ちながら学ぶことができます。遊びを入りにメディアの特性を学ぶきっかけを作っていくことで、この情報過多時代の中で一人ひとりが正しく情報を取捨選択しながら生きていける社会を目指します。

54 労働者協同組合 こども編集部

発表者：金井 智美 ほか

「こどもが作るこどもに届ける」 編集部スタイルの協働コミュニティ

2020年より思春期世代を対象に、取材活動や表現活動などを通して、学校や部活、家庭外での社会とのつながりをつくり、自ら考える力やコミュニケーション力、自己肯定感を養う場を提供してきました。活動する中で、近年課題とされる不登校問題への一助となるサードプレイスとしての役目も感じています。子どもの「やってみたい！」想いを社会がバックアップする。それが普通だと思えるような社会をつくりたいと考えています。